



会長挨拶	1
コメント	2
会員の近況	7
留学生同窓会設立総会	7
役員会兼新年会	7
岡山大学留学生同窓会上海支部設立大会	8
岡山大学留学生同窓会役員名簿	8

海外留学生同窓会を 活用した 岡山大学の未来戦略

岡山大学留学生同窓会 会長 張 紅 (Zhang Hong)

博士(法学)／弁護士(法律)／東方学者

岡山大学法学修士号取得／広島大学法学博士号取得
東京大学先端科学技術研究センター研究員
University of Washington School of Law
Visiting Scholar を経て
現在、岡山大学法学部教授／日本現代中国法学会理事
北京大学法学院客員教授／経済法研究所兼任教授
北京大学政府管理学院兼任研究員
吉林大学法学院兼任教授
独立行政法人中小企業基盤整備機構 アドバイザー
中倫律師事務所顧問



グローバル社会との架け橋としての卒業留学生の役割

留学生同窓会員の皆様には、つつがなくお過ごしのこととお慶び申し上げます。平素より岡山大学留学生同窓会に、ご支援とご協力を賜りまして厚くお礼申し上げます。

2011年（平成23年）10月22日に「岡山大学留学生同窓会」記念式典が盛大な中、設立されました。私はその設立総会におきまして、初代の会長を命じられた張 紅でございます。岡山大学は、六十有余年の歴史を持ち、多くの有能な人材を輩出してまいりました。この伝統ある大学の留学生同窓会の運営をお預かりすることになりまして、責任の重大さを感じています。

「岡山大学留学生同窓会」の成長

「岡山大学留学生同窓会」の設立と運営に関しては、各役員、事務局の皆様、そして多くの会員の皆様のご協力を得ながら、今日に至りました。お蔭様で、この活動は岡山大学への支援事業となり、また、海外並びに国内での支部設立も順調に進んでおります。

「岡山大学留学生同窓会」のねらい

岡山大学は、海外からの留学生を1959年から積極的に受け入れ、長年にわたって優秀な人材を世界に送り出してまいりました。これから年々増え続ける海外留学生が卒業後も協力し合い、それぞれの母国の発展に貢献するためにも同窓会の活動が活発になることを願っています。また、グローバル社会の中で、岡山大学が国際的に高い評価を得られる教育研究機関として勝ち残っていくためには、卒業留学生が活躍している社会での地位や能力が相互に利用できるよう、ネットワーク化することが重要であるとの認識に至りました。したがって、岡山大学留学生同窓会のねらいは、卒業留学生（海外に居住している岡山大学卒業生・修了生を含む）同士の交流・親睦をより深めることにあります。加えて、各界で活躍する会員の奉仕の精神で結ばれた世界的規模の親交によって、国際間の理解と親善推進にも寄与できることが理想です。



岡山大学留学生同窓会「活動方針」

① 会員相互の交流、情報交換拠点事業

同窓会の運営するウェブサイトを立て、魅力的な議論が出来る場として設け、会員が発表する情報を世界に発信すること、および各界との緊密な連絡も出来るプラットフォームとします。

② 人材確保事業

岡山大学の声価を高め優秀な人材を集めるために、留学生同窓会の会員が大学と連携協力してまいります。特に、学内外のプログラムの交流を推進してまいります。

③ 情報提供事業

会員名簿及びニュースレターなどの発行などを通して、各国の海外留学生間の連絡を密にし、留学生の学業遂行のために出来る限りの協力をし、同時に、海外留学生とそれぞれの母国の関係強化のために、架け橋として発揮できるネットワークとして有効に利用いただくよう進めてまいります。

④ 会員の福祉厚生に関する事業

会員に関する正当な合法的權益を守るために、友好的な扶助活動を展開し、海外留学卒業生と日本の各種団体との友好的な交流に貢献出来るように努めます。

⑤ その他事業

岡山大学が社会に開かれた大学になるように大学と連携協力してまいります。また、各局同窓会と相互の連携協力をはかることも考えております。

会員へのお願い

ご存じかと思いますが、世界の一流大学では、同窓会活動が大変活発であり、また、それぞれの母校を支える大きな役割を果たしています。私どもの岡山大学もそれら一流大学と踵を接し、グローバルの人材養成とその確保に努力いたしております。したがって、皆様におかれましては、卒業の後も、大学と世界および地域の経済産業界の間を結ぶ大切なパイプ役を果たして頂くことを期待いたします。

更に、当同窓会のネットワーク活動を通して、海外からの留学生のみならず、海外に居住している岡山大学卒業生・修了生を含み、世界の各国において各方面で活躍されている卒業生の方々の経験を共有したり、情報交換をしたりし、互いに助け合うためのコミュニケーションの場として当会を利用いただければ、立ち上げた関係者にとってこの上ない喜びでございます。

最後に、当会への会員皆様の積極的な参加と関係者の皆様方からの熱いご支援を心からお願い申し上げ、会長としての挨拶とさせていただきます。



中国ビジネスと 経営トラブル防止策

張 紅

筆者は岡山大学法学部の教授として会社法、金融商品取引法、知的財産法に関する日中米の比較研究をしながら授業を担当する一方、中国人弁護士として日本企業向けの中国ビジネスアドバイザーもしている。2000年4月に岡山大学に赴任してから、物心両面において多くの諸氏からご支援頂き、心から御礼申し上げる。

中国の諺に「受人滴水之恩、当以湧泉之報」というのがあるが、意識すれば「受けた恩は忘れず倍にしてお返しする」ということである。今後、どのようにお返しするか分からないが、「日中の架け橋」として筆者なりに社会貢献に寄与したい。

昨年は本学留学生同窓会が設立されるに当たり、初代会長を拝命し、大変重責ながらお引き受けするに至った。今後、会員ならびに関係者の皆様方のお力をお借りしつつ、精一杯頑張りたいと思っている。

この度は、この同窓会のプラットフォームを利用させて頂き、中国へ進出される企業、或は中国関連事業に携わる諸氏のお役に立てるよう、著者が講義・講演で用いたものをまとめた「中国ビジネスと経営トラブル防止策」を提供したい。

【中国への進出企業の傾向】

近年、多くの日本企業が中国に進出しているが、それを、アメリカ、ヨーロッパと比べると、以下の特徴を持っている。

アメリカからの進出企業数は、安定した増加傾向にあり、業種としてはハイテク製品、金融、電器通信等のサービス業、ベンチャー企業への投資が主なものである。また、ヨーロッパからは、大型投資企業の進出が急増し、特に、流通・保険等のサービス業、医薬品・科学素材関連、中小企業が多く見られる。一方、日本の企業数は、一時減少していたが、今は増加傾向にある。業種としては、既存会社の再投資、電器製品や機械部品の製造業、消費財の中堅・中小企業の投資が目立つ。

日本企業の進出先は、主に沿海地域を選択する傾向にあり、大部分が、東沿海に集中し、内陸部への展開が少ない。また、業種によって地域選択が異なっている。例えば、農林水産の業種は、中国北東部沿海地域の遼寧、山東、江蘇に集中しているが、建設業は上海、北京、天津、広州、深圳、大連等の大都市であり、製造業およびサービス業は北京と上海に多く、金融、保険および証券投資企業は、北京、上海、遼寧、広東省等の大都市に集中している。

一方、近年、中国企業が、企業買収や資本出資および技術提携などの形で、日本を始め海外への進出が活発になりつつある。例えば、日本企業を買収した最も有名な事例では「両面カラー印刷機」を



世界で初めて開発したことで知られるアキヤマ印刷機製造を中国の重電最大手の上海電気集団企業が香港系の投資会社と組んで買収したケースが挙げられる。このケースは、民事再生法の適用を申請中で、財務的な支援を必要としていたアキヤマ印刷機製造側の事情とアキヤマ印刷機製造の高い技術力、販路、ブランドを獲得したいという上海電気集団企業の考えが合致した成功事例としてマスコミでも大きく取り上げられた。

また、中国の大手製薬メーカーの三九集団企業が、東亜製薬の増資を引き受けて過半数以上の株式を取得したケースがある。東亜製薬の店頭用医薬品の製造承認、漢方薬の商品化ノウハウを獲得したいという三九集団企業の目的と、販売拡大と品質の安定した漢方薬原料の確保を望む東亜製薬側のメリットとが一致したケースである。

この他、中国大手総合家電メーカーの広東美的集団企業が、三洋電機の電子レンジ基幹部品の製造技術と製造設備を買収したケースにおいても、事業再編対象部門の製造技術を売却することができた三洋電機と、部品の国産化で、価格競争を強化したいという広東美的集団企業の双方の利益がマッチしたものと評価できる。

このように海外進出戦略により、中国企業が対外直接投資を行える環境が整いつつあることは興味あるところである。ただし、現在でも中国企業には対外投資の経験が少なく、人材もまだまだ不足している。したがって、リスクの高い対外投資よりも、再建途中の中国国有企業を対象とした国内投資を行う方が先決だという考え方がある。このような事情を考えると、対外M&Aを含む対外直接投資が急激に増加することはないように思われるが、今後の新たな展開には注目しておきたいところだ。

【中国への進出企業へのアドバイス】

以下に、中国へ進出される企業への具体的なアドバイス事項を中国の法的制度も紹介しながら述べてみたい。

① 中国での取締役に対する責任追及のあり方

中国では、取締役の責任をより一層強化し、責任追及も厳格にすべきだという考えをもった学者が少なくない。例えば、取締役の種類別にその過失責任を追及していくという考え方がある。また、中国での取締役には、会社法ではその区分をしていないが、実際には、普通取締役、社外取締役及び独立取締役の3種類が存在する。取締役に対する規定として、中国会社法第118条の3では、「取締役会の決議が法令または定款に違反し、会社に重大な損害を与えた場合、その決議に賛成した取締役が会社に対して損害賠償責任を負う」とされている。ただし、この場合の各種類の取締役の立場は、会社の業務執行決定に対して関与の程度がそれぞれ違っており、その責任追及についてもそれぞれ区別して追及されるべきだと考えられる。また、中国での特殊性でもあるが、影の取締役が存在している。彼らは法律上の取締役



ではなく、事実上の取締役であるが、取締役同等の権限を持っており、その反面それ相当の行政処分または刑事罰の対象となり、正規の取締役と同じように、会社法上の損害賠償責任を負うこともある。進出企業の取締役はこのことを十分理解しておいて頂きたい。

② 企業リスクの発生とリスク・マネジメントの能力の必要性

企業のリスクは企業への信頼と社会の期待の間で大きな差があるとき発生する。この防御策としてリスクマネジメントを構築しなければならない。

中国では、外国企業、特に多国籍企業は、その優れた技術、先進的な経営手法などをもって、高い信頼性と評価を受けている。しかしこのことは、外資系企業にとって両刃の剣であり、期待が大きいほど、反動も強いものになる。外資系企業をめぐって何か問題が生じた際、マスコミに大々的に取り上げられ、当該企業へのパッシングに発展することも珍しくない。トラブルは例外なく、企業のイメージダウンを招き、経営に深刻なダメージを与えることも少なくない。こうした事件はこれまでに多数発生し、信用不安の発火点となってきた。特に、日系企業を取り巻くトラブルが多いため、中国の関係者の間ではその原因として日系企業のPR不足が指摘されてきた。この様な場合、トラブルの回避策を事前に講じているか、万一、問題が発生した際に迅速かつ適切に対応できるリスク・マネジメントの能力が問われている。

③ 不正競争や知的財産権侵害対策

進出企業にとって中国における企業経営は、不正競争や知的財産権の侵害、制度の未整備など、様々な問題が存在する複雑で厳しい環境下での戦いを覚悟しなければならない上、異なる社会習慣、文化問題にも直面する場合が聞かれる。こうした中、事業活動を順調に展開していくためには、法的環境、社会的文化的環境を十分に理解した上で、普段から社内関連体制を構築し、企業活動のコンプライアンスに努め、また外部社会と良好なコミュニケーションを保つなどによって、トラブルやリスクに事前に備えることが不可欠である。こうした努力があるか否かが、中国進出の成否の分かれ目といっても過言ではない。

企業が対外投資において、自社技術を保護する場合、自社製品のコア技術に関する特許権を持つことが大切だと思われる。万一、知的財産権の侵害を受けた場合は、その救済活動のためには、公的機関による侵害行為の認定を受ける必要があるが、その認定ルートも司法ルートか行政ルートか選択する必要がある。仮に、司法ルートを選択する場合、裁判において、司法担当者の専門知識の不足、権利者側の立証の困難性、処罰や賠償金が不当に低いなどの問題や地方保護主義の考え方が障害となる場合もある。更に、裁判官は不法行為に対する打撃に重点を置き、権利侵害への

差止めを優先する傾向にあり、賠償の獲得は二の次と考えることが多い。従って、日本企業は、知的財産戦略を重要項目の一つとして捉え、弁理士や専門弁護士の起用、或は有力法律



事務所と契約することをお勧めしたい。これらに対する投資を経費削減として惜しまないことが肝要である。

④ 中国弁護士の活用

中国の多くの弁護士や裁判官の意見を聞くと、「欧米企業が中国に進出する場合、九割以上が自国から弁護士や会計士を連れて来ており、その上、中国人弁護士を顧問弁護士とし法的なアドバイスを受けつつビジネスを進めている。ところが、日本企業は始めから弁護士を連れてくるということはありません、中国人弁護士を長期的に顧問とする形が多い。ただし、その顧問弁護士と契約している企業はほとんどが大手企業で、中小企業の多くは契約もしておらず、中国人弁護士を顧問弁護士としている企業は全体の割にも満たない。その結果、中国ビジネスで失敗する企業は、欧米企業に比べて日本企業が圧倒的に多い。失敗する原因はさまざまであろうが、その原因の一つに中国ビジネスに必要な中国法の理解がないこと、特に、中国の弁護士を活用する方法を知らないことがあると思われる。」というものである。これは多くの日本の企業にとって参考となる情報ではないかと思われる。

特に、日本の中小企業は中国法というものの重要性を認識していない。例えば、既に施行された「外商投資商業領域管理弁法」は、中国国内で小売業や卸売業が自由にできることになり、中国のマーケットが魅力に富むものになったはずだが、実際はそのことをあまり詳しく知られていない。また、これまでに外資系企業は、「中外合資経営企業法」、「中外共同経営企業法」、「外資企業法」及び、「実施条例」、「実施細則」が適用され、一般企業とは別の枠組みの法律を適用されていたが、既に施行された新しい「会社法」は一体に統合された。このことなども、是非研究・理解した上で進出して頂きたい。

⑤ 経営の標準化

現在は、従来の企業間取引に比べ、取引の変貌が急ピッチで進んでいる。例えば、インターネットでの商取引が拡大を続けており、お互いに顔の見えない取引先と信用判断を素早く下していくことが求められる。

企業のリスクは、経営全般に存在するが、一般的には企業が最重要に捉えているのが「債権管理」「得意先管理」すなわち「与信管理」で狭義のリスク管理である。しかし、これからの経営はそれのみに終わるのではなく、広い意味での信用を高めるため、全方向の部署や機構において総合的に徹底して取組まねばならない。すなわち、業務全般にわたり十分な考察と準備をし、業務の標準化を図り健全な経営管理に備える必要がある。

⑥ 防止策に関する若干のポイント

その1：言葉の問題

中国国内で営業する場合、信頼できると思われる人に任せれば全てうまくいくと思いがちであるが、契約面でも法廷でも細かなニュアンスが伝わらなくて、また誤解が生じ、問題を起こすことがある。出来れば通訳など通さず自分の言葉で、自分自身の行動で確認する努力が必要である。

その2：情報知識

正確な情報を持っているかどうかも重要なところである。

その3：事前調査

新しいプロジェクトには絶対必要である。

その4：根回し交渉

特に、中国では重要なことである。政府の見解や条文に謳っ

であっても交渉によって、(あくまでも法の規範範囲内のことではあるが) 制限が緩和される場合もある。現状でも中国では、そうした根回しにより成功する部分もある。

その5：契約締結

東洋人の慣習では信頼関係でビジネスをするということが多いが、現在は欧米的な契約が重要になってきており、親密な関係であっても、双方の利権保護のために正式な契約書の作成は欠かせない。

今後の日中間の交流において、両国間の企業経営活動は益々

親密度を増してくるものと確信している。また、今後、日中間のみにとどまらず、東アジアをスタート拠点としてより広い経済活動の展開を心から願うものであり、そのベースとなる交流活動を円滑に進めるにあたり、国家間の法的な違いによる壁を取り除くために、筆者は法律家として、益々研究しなければならない問題の多いことも痛感している。

最後に、この小稿が会員諸氏に少しでも参考になれば幸いである。



遺伝子治療の最前線 —岡山大学の挑戦—

賀来 春紀

岡山大学病院・新医療研究開発センター
癌治療イノベーションは21世紀最大の医療課題であり、遺伝子治療は既存療法では制御不能な癌克服のブレイクスルーとして期待されている。岡山大学では、

これまで積極的に遺伝子治療の臨床研究が進められてきた。前立腺癌に対する世界初の遺伝子治療(HSV-tk遺伝子による自殺遺伝子治療)は1996年に米国ペイラー医科大学で開始され、岡山大学泌尿器科学教室はその当時から同大学との国際共同研究を継続してきた。岡山大学泌尿器科では、1998年に国内初となる前立腺癌に対するHSV-tk遺伝子による自殺遺伝子治療が実施され、内分泌療法抵抗性前立腺癌に対する当該遺伝子治療の安全性、有効性が確認された。また岡山大学では、2008年より前立腺癌に対するIL-12免疫遺伝子治療臨床研究が開始され、現在も継続して実施されている。これらの背景の中、我々は独自に新規の癌抑制・治療遺伝子の探索を続けてきた。

岡山大学が独自に発見した新規抑制遺伝子REIC(Reduced Expression in Immortalized Cells) 遺伝子は、癌細胞選択的アポトーシスと抗癌免疫の活性化を同時に実現することによる自己癌ワクチン化療法を可能にし、各種固形癌に適用できる理想的な癌治療遺伝子であると考えられる。REIC遺伝子は、不死化に関連する遺伝子として2000年に岡山大学で単離同定され、350アミノ酸をコードする。REICタンパク質は、正常細胞では大量に発現されている一方、多くの癌細胞で発現が顕著に抑制されており、代表的な癌治療遺伝子であるp53やMDA-7

より優れた臨床応用性を持っていると考えられる。これまでの動物実験の結果より、REIC遺伝子を腫瘍に強制的に導入することで、前立腺癌や悪性中皮腫をはじめとする各種の固形癌モデルにおいて強い抗腫瘍効果が実証されている。これらの基盤研究の成果に基づき、癌治療遺伝子REICを用いた前立腺癌における臨床研究(First-In-Man試験)が、2011年1月に世界で初めて岡山大学病院において実施された。今後、REIC遺伝子治療の安全性・有効性が検証され、さらに幅広い癌種での治療にREIC遺伝子が適用されることが期待される。

私自身は、中華人民共和国より岡山大学医学部に医学部生として留学した。その後、泌尿器科医師として岡山大学で遺伝子治療の基礎研究、臨床研究に従事し、また、日中泌尿器科会議の理事、事務局長を務めさせて頂いている。私は、これからも岡山大学において遺伝子治療等の新医療の研究開発を継続して行い、また、日中の学術交流の橋渡しの役割を果たしていく所存である。

前立腺癌に対するREIC遺伝子治療の臨床研究

(第一例目：平成23年1月25日)



超音波ガイド下にてがん治療遺伝子REICを直接癌巣部に注入している



中国全土に推進される 在宅介護サービス事業の現状 と課題

姜 波 (Jiang Bo)

川崎医療福祉大学 教授 社会学

今中国では、高齢者人口が増加し、その福祉を取り巻く現状において、高齢者

介護施設が少ないなどの点が問題となっている。とりわけ、収入の低い高齢者の多いなか、福祉環境整備が急務となっている。現在、中国の高齢者にとって最も有力な福祉サービスの方策として「在宅介護サービス事業」が政府主導で中国全土に実施されている。本論文は、ここ数年中国における在宅介護サービスの実施状況に関する調査研究を取り上げ、今後の在宅介護サービスの意義とその展開に必要な課題について論じる。在宅介護サービス事業の展開においては、その財源確保が地方政府

に委ねられている政策を見直し、経済格差が高齢者福祉の施策に及ぶことのないように注意を喚起する。また、在宅介護サービスの質的な向上に向け、高齢者一人ひとりのニーズに合わせ

たサービスが提供できるように、医療・看護・介護に携わる専門職、特にケアマネジャーやソーシャルワーカー等を適切に配置することが一つの鍵となることを明らかにした。



生物系廃棄物における炭素窒素貯留および腐植化技術^{※1} Carbon and Nitrogen Sequestration and Humification Technology of Biomass Waste

矯 学真 (Jiao Xuezen)

元岡山大学大学院自然科学研究科博士課程

1994年3月博士学位取得

現岡山理科大学 非常勤講師

生物系廃棄物における炭素や窒素、ミネラルを貯留し、腐植化して土壌へ還す技術を開発した。これは生ごみや汚水汚泥等の廃棄物の新しい処理法で、従来の埋め立てや堆肥化、焼却とは異なる方式である。廃棄物は、薫留窯や凝縮器、熱風炉等を組み合わせた「低酸素熱風密閉式循環システム」に基づいて「薫留-凝縮」工程で処理し、薫留窯で薫留乾燥や殺菌消臭、固液分離、腐植化・無機化される。薫留窯の燻煙は大気へ排出せず、燻煙の中の蒸発液は凝縮器で気液分離、凝縮回収され、「生物酢液」に製品される。一方、燻し乾いたバイオ資材は炭素や窒素等が貯留され、しかも炭水化物やタンパク質などが分解され、

腐植化・無機化され、「腐植素」(炭素窒素剤や腐植物質)に製品される。循環型社会にふさわしく排ガス、排水なしで、「生物酢液」と「腐植素」が産物である。

この燻す生ごみ処理法では、ダイオキシンや温室効果ガス、有害物質のゼロエミッションを実現し、生物系廃棄物の栄養元素を100%生態貯留し、土壌に還すことでその物質生態循環が生かせ、土壌を肥やし、土壌有機炭素貯留量を増やすことができ、地球温暖化の防止、継続的な開発をすることを促進できる。

この「炭素窒素腐植化技術」により、地球の環境に対して人間の悪い影響を基本的に消去でき、オゾン層破壊や地球温暖化、大気汚染、水汚染、土壌汚染、土壌肥沃度低下、土地砂漠化、資源の枯渇、エネルギー危機、食品安全などの環境問題をすべて解決できる。これは環境・土壌・エネルギー生態発展技術である。

初期建設コストは焼却処理の30%以下である。

※1 矯学真、「生物体廃棄物における物質循環技術及び設備」、日本特許庁への特許出願中、特願2011-103915。2011年5月8日

(矯 学真 住所：岡山県赤磐市山陽3丁目2番2号

電話：090-4105-6999 或は086-955-8789

Email : jiaoxz1103@yahoo.co.jp)



オリンピック記事における日韓比較 —新聞の見出しをもとに—

朴 点淑 (パク ジョンスク)

岡山大学 非常勤講師

本稿は、語彙分析を通して日韓の社会的・文化的背景を明らかにするという目的の下に、日韓の新聞における、第2次世界大戦以降のオリンピック会期中の見出しに出現する頻度の高い語彙、特徴的な語彙を、通時的・量的に収集し、分析した。分析の観点は、①昨今のオリンピックは、国家間競争の観を帯びてきているが、見出しにはその国家意識を表出する語彙が多用されるのか。国家と対照的な家族・職場といった親密な共同体に関する語彙の使用状況にはどのような傾向が見られるのか、②国家や家族といった共同体以外の語彙にはどのような傾向が見られるのか、の2点で、その結果から両国の社会的・文化的背景との関わりについて考察した。考察から得られた知見は以下の3点である。

1. 日韓双方とも、新聞の見出しからは、国家から家族のような親密な共同体への回帰といった現象は見られず、むしろ近年においては「日本」「韓国」を含む語彙を多用することで、国家の存在をアピールしていることが見て取れた。ただし、

韓国では2大会を除き、国家の象徴である国旗「太極旗」が見出しに現れるのに比べ、日本では「日の丸」が1976年を境に見出しから消滅しており、見出しの中では「日の丸」という語が国家のシンボルとしての機能を失っていることが窺えた。

2. 日韓の親密な共同体意識については、日本は社会状況と連動し、高度経済成長期には「家族」のような共同体に関する語彙が少ないが、韓国の語彙使用に関しては、社会状況との関連は見られないことが明らかとなった。また日本は家族に関する語彙以外に、「母校」や「職場」といった小さな共同体に関する語彙が出現するが、韓国ではそれらは見られず、同胞意識を強く表出し、時には国家までを含む「ウリ」という特徴的な語の出現が目立った。

3. 日本では、頻出語彙のうち、敗北に関する語彙が多く、語そのものが肯定的な意味を含んでいても、見出し全体では敗北のような否定的な意味となる割合が韓国より高かった。一方韓国では、「金」のように最高位を示す語彙、勝利に関する語彙の割合が高かった。この結果には、上昇志向が強く、楽天的な韓国の社会や国民性、横並び意識が強く、物事を悲観的にとらえやすい日本の社会や国民性が現れていると言える。



Zaheed Mahmood (ザヒド マハムド)
マイクロクラフト(株)品質保証課長

A. REGULAR ACTIVITIES

Regular activities are common activities that OMSA usually hold it in regular basis (weekly, monthly and annually) .

The following activities were held from April 2011 until March 2012 :

1. **Daily Prayers.** Members of OMSA and other muslims participates in regular five daily prayers at the Okayama Islamic Center near Tsushima Campus. The timing of prayers and attendance varies.
2. **Friday Prayers.** Friday is special day and Friday prayer is special prayer for muslims, especially for men. It should be done in congregation. The timing of prayer is around 12 : 00 – 12 : 40. The leader of this pray was being changed every week among the students in order to give them courage to face the audience.
3. **Weekly Qur'anic Study.** This activity is once a week (Monday night) to learn holy book of Islam, how to read and its meaning (Al Qur'an) . Special program for kids is also once a week at Sunday. This program can be done continuously because voluntary effort of certain OMSA member.
4. **Monthly Executive Meeting.** This meeting was held to discuss and plan for activities in OMSA.
5. **Farewell Party.** We appreciate our graduating members for their effort and valuable contributions to our association. Gifts and certificates were given to graduating Students and Researchers. The party was held on September 4th , 2011 and will be held on March 12th ,2012 at Conversation Hall of The International Student House of Okayama University.
6. **Golden Week Lecture.** Golden week is important holiday because we can make special event. We took a chance of this holiday to organize lecture by inviting an Islamic Scholar to give us some advice and information about Islam and its application. The lecture was held at Okayama University International Student House, Conversation Hall on Tuesday, 3rd March 2011.
7. **Ramadan Activity.** Ramadan is the ninth month of the Islamic Calendar. It is Islamic month of fasting, in which participating Muslim refrain from eating, drinking, and

sexual relations from dawn until sunset. Fasting is intended to teach Muslims about patience, humility, and spirituality. OMSA organized a lot of programs during this month. This include Joint pre-dawn and after-sunset Meals, Special night prayers and lecture, and Family get together every weekend. Ramadan Activities started from 1st August till 29th August 2011. All these programs were held at Okayama Islamic Center and Okayama University International Student Hall.

8. **Annuals Festivals.** Two annual festivals, titled Eid Al Fitr and Eid Al-Adha festivals. The Eid Al Fitr festivals marked the end of Ramadan activities and came up on 30th August 2011. Special Prayers were held at new International Student House of Okayama University. The Eid Al-Adha came up on the 6th November 2011. Special prayer were held at Conversation Hall of the International Student House on this day followed by light breakfast.

B. SPECIAL ACTIVITIES

Every year OMSA organizes some special program to meet the need of members. During this period the following activities were held :

1. **Workshop on Leadership & Administration.** OMSA served as the host to a-2day International Workshop on Leadership & Administration organized by Muslim Student Association of Japan (MSAJ, an association of Muslims student organization in whole Japan) . The workshop came up on 7th and 8th May 2011. This training focused on building effective leadership skill of the participants. This program were held in International Student House of Okayama University.
2. **Sport Competition.** In cooperation with Malaysia Student Association, we were held futsal competition. Around 60 people joined this program, not only from Okayama city, but also city next to Okayama. This competition were held on 3rd June 2011.

ACKNOWLEDGEMENT

On behalf of all OMSA executive members we hereby express our sincere gratitude to all officers of OIC and the entire members of the Okayama Muslim Community for their cooperation and support.

Heri Setiawan

President of OMSA
2011/2012

Tareek Abdul Al Qadir

General Secretary of OMSA
2011/2012

会員の近況

中国威海工場長 王杉さんからのメール

岡山大学留学生同窓会

メールをいただき、ありがとうございます。岡山大学の留学生生活はいつも私のいい思い出です。

私は王杉と言います。1995年工学部情報工学研究科の修士課程を卒業し、2001年に自然科学研究科博士課程を中退しました。

私は2004年に国光カーボン工業株式会社に就職しました。会社の製品はカーボンブラシで、すべて車モータ用のものです。会社は2003年に中国に進出し、今、私は工場長として中国の威海工場で頑張っています。中国工場の製品はABSやフィルパ

ンプなど用のブラシが海外と国内の大手メーカーに供給しています。威海は中国の一番東で、三面海に囲まれて綺麗な都市です。私の両親は元々、北京航空航天大学の先生でしたが、定年してから威海市に来て、潤滑油の浄化技術を研究しています。私は今、両親の研究を参与し、その技術を運用して、潤滑油の浄化設備を作っています。今後、二酸化炭素を削減するため、設備の保護と潤滑油の寿命を延ばすという課題で展開していくと思います。

私は留学同窓会を通して、岡大の各留学生方とつないで、輪として頑張っていくといいなあ……

以上、宜しくお願いいたします。

オウ スギ

留学生同窓会設立総会

岡山大学は2011年11月22日、開学記念日に行ったホームカミングデイに合わせ、「岡山大学留学生同窓会設立記念式典及び第1回総会」を、国際交流会館ラウンジで開催しました。

総会には、国内外から駆けつけた同窓生や現役留学生ら約150人が出席。中国出身で初代会長となった張紅・社会文化科学研究科教授から「大学の国際競争力を高めることは必然の要求。大学と世界、地域の経済産業界を結ぶパイプとなるよう期待します。」との挨拶がありました。会則の承認や役員の紹介などを行った後、出席者は、地域の経済産業界の方々と歓談しながら各国の民族衣装で披露された出し物を鑑賞したり、岡山を第二の故郷と偲んで、全員で童謡の「ふるさと」を合唱するなど、互いに親交を深めました。

来賓として、孔多孜・玉素甫中国大使館駐大阪副総領事、孫克強領事、河本勉岡山県議会議員、荒木勝岡山大学副学長から祝辞が述べられ、石井正弘岡山県知事の祝辞も代読されました。また、森田潔岡山大学長、高谷茂男岡山市長をはじめ、岡山県内の高等教育機関の長、地方公共団体の首長、各種経済団体及び国際交流団体などから多くの祝電が届き披露されました。

今後、インターネットなど通じて、会員同士が情報交換できるシステムを整備する予定で、東京や中国、韓国、ベトナムなどに支部を設置することも計画しています。



第2回総会(ミニシンポジウム)開催のご案内

日時：2012年10月20日(土) 14:00～17:00

開催場所：岡山大学国際交流会館ラウンジ棟

役員会兼新年会

2012年1月28日役員会兼新年会が開かれました。



岡山大学留学生同窓会上海支部設立大会

「岡山大学留学生同窓会上海支部設立大会」は、予定どおり2012年4月23日(月)上海市内のホテルで開催された。荒木勝副学長、張紅留学生同窓会長など岡山大学関係者が来賓として参加した。また、東京で会社を営んでいる同窓生も駆けつけた。

中国国内からは、北京、浙江、江蘇、吉林及び地元上海から多くの同胞が集まり、総勢50名余りの者が参加し、盛大な上海支部設立大会となった。

大会では、地元政府所管の窓口を代表して、上海市人民政府僑務弁公室副主任の蔡建国氏から、「岡山大学は、堅実な学風を持つ日本で指折り数えるほどしかない名門大学であり、同大との交流や共同研究を振り返ると正に感無量である。」との祝辞が述べられた。

続いて、上海同窓会長の魏铀原氏から「私たちの母校岡山大学は、海外からの留学生をも含む人材育成に多大な貢献をした。岡山大学では、言葉や文化の壁を乗り越え、専門知識だけでなく、日本文化、日本人の物の考え方など親切に指導いただき、『滴水之恩』という気持ちで、母校岡山大学の今後の持続的発展のために、ひいては、中国と日本両国及び両国民の末長い友好のために貢献していきたい。」と、参集者各位の共鳴や涙を誘うような挨拶があった。

次に、荒木副学長及び張留学生同窓会長から、「岡山大学は、現在、帰国留学生のネットワーク作りに力を注いでおり、世界各地（韓国、ベトナム、台湾、北京、長春、大連など）に支部を立ち上げようとしている。大学と世界及び地域の経済産業界

の間を結ぶ大切なパイプ役を果たしていただくことを期待する。」との抱負が述べられた。

また、日本政府を代表して、日本国駐上海総領事館文化教育担当領事の角谷俊太郎氏、上海岡山県人会の代表者、吉林省岡山大学同窓会設立準備会代表者及び大阪大学留学生上海同窓会からの祝辞も披露された。

目覚ましい発展を続ける上海は、日本に一番近い中国の大都市であり、岡山大学卒業生の最も集中している町である。本会は、そういう利便性を活用し、また、母校に設置されている同窓会本部、今後各地に設立される支部と連携を密に図り、今後は、「ますます魅力溢れる母校、岡山大学の発展に寄与したい。」という共通の思いで、同窓会組織の強化、会員の増加、同じ岡山大学卒業生としての一体感を高めていくための諸活動を展開していく。



岡山大学留学生同窓会役員名簿

役職名	氏 名	現 職 名	E-mail
会 長	張 紅(チョウ コウ)中国	岡山大学大学院社会文化科学研究科教授	zhang@law.okayama-u.ac.jp
副 会 長	金 惠淑(キム ヘスク)韓国	岡山大学大学院医歯薬学総合研究科准教授	hskim@cc.okayama-u.ac.jp
〃	Zaheed Mahmood(ザヒド マハムド)バングラデシュ	マイクロクラフト(株)品質保証課長	z-mahmood@microcraft.co.jp
〃	姜 波(キョウ ハ)中国	川崎医療福祉大学 教授	jiangbo@mw.kawasaki-m.ac.jp
〃	賀来 春紀(カク ハルキ)中国	岡山大学病院 講師	kaku@md.okayama-u.ac.jp
〃	梁 薇(リャン ウエイ)中国	日本健身気功普及協会理事長	bushuu@mub.biglobe.ne.jp
幹事兼会計	朴 点淑(パク ジョンスク)韓国	岡山大学 非常勤講師	park12250@yahoo.co.jp
監 査 役	Muhammad Shahbaz Akhtar (ムハンマド・シャハバズ・アフタル)パキスタン	岡山大学大学院環境学研究科 研究員	shahbazak46@gmail.com
〃	Ahmad Shamsul Azri Bin Abas (アハマド・シャムスル・アズリ・ビン・アバス)マレーシア	丸五株式会社 エンジニア	asa_riey0000@yahoo.com
顧 問	岡 益己(オカ マスミ)	岡山大学国際センター教授	moka@cc.okayama-u.ac.jp
事務局 長	小橋 雅行(コバシ マサユキ)	岡山大学国際センター事務室職員	kobashi-m@adm.okayama-u.ac.jp
事 務 室	山崎 征洋(ヤマサキ マサヒロ)室長		yamasaki-m@adm.okayama-u.ac.jp
	内藤 賢一郎(ナイトウ ケンイチロウ)主査		naitou-k@adm.okayama-u.ac.jp
	平井 恵子(ヒライ ケイコ)室員		hirai-k@adm.okayama-u.ac.jp
	石田 聡子(イシダ サトコ)室員		rssoudan@cc.okayama-u.ac.jp

お問い合わせ先

岡山大学国際センター 〒700-8530 岡山市北区津島中2-1-1 Phone: 086-251-7047 FAX: 086-252-5022 Email: int.alumni@cc.okayama-u.ac.jp
事務局 長: 小橋 雅行 (コバシ マサユキ) 広報担当: 姜 波 jiangbo@mw.kawasaki-m.ac.jp 朴 点淑 park12250@yahoo.co.jp